

# 希望

## この手に

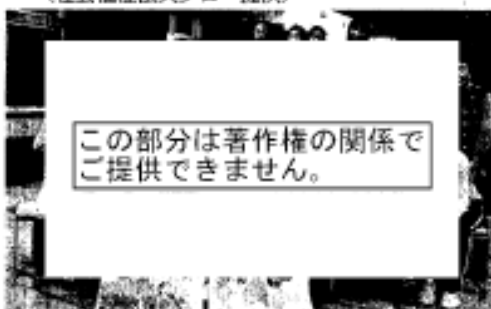
沖縄の貧困・子どものいま

### 第3部⑩

制度のはさまを埋める支援を創出する動きが、滋賀県全域で広がっている。推進母体は、県内の民間団体でつくる「滋賀の緑創造実践センター」だ。県社協を中心に高齢者などの福祉関連198法人(4月現在)が集まった任意団体だ。「5年以内」に300

滋賀県・緑創造実践センター

子どもも地域の大人も楽しんで参加しているという「ながはまこども食堂」=滋賀県長浜市(社会福祉法人グロー提供)



力所の子ども食堂」など具体的に意欲的な目標を掲げ活動を展開する。

スピード感を出すため活動期間は5年に限定。「緑」の名を冠し、関係者や地域との対

話を「じっくり」続けたいという「緑創造実践センター」の谷口郁美所長。課題ごとの小

委員会、会員交流会に専門職の研修会など問題を共有し方を目指す。運営団体を公募

### 課題解決へ福祉198法人連携

## 短期間でモデル構築

向性や役割分担を明確にし、できることを探ってきた。

活動資金は1口10万円の寄付を募り、民間から6千万

円、滋賀県が3千万円を出し、初年度で目標額の約1億円を達成した。これを元手に事業を展開している。

「短期間で新しいことを始めるのは民間の得意分野。そこでできたモデルを制度化し

といふ理念が合致し、参加しない理由がなかった」と語る。毎月1回、地域ボランティアと地域の子どもたち20人ほどがにぎやかに過ごす。以前から夏祭りや運動会など日

常的に地域交流をしており「ボランティアも子どもも集まりやすい」(安武さん)と、明るく開かれた雰囲気

を拠点に、子どもの専門家の人件費や施設利用料を緑創造実践センターが補助し、少人数の子どもと夕食や入浴を共にする。

し、初年度は年間20万円、2年目からは10万円を緑創造実践センターから補助するが、運営方法は一任して地域に合うやり方を構築してもらおう。

2015年に第1号開所となったのは長浜市の老人ホーム

ムながはま。これまで子ども関係の仕事はしたことがなかったが職員は安武邦治さん

(43)は「地域の幸せのため

もう一つの柱は、制度のはさまにある課題解決のためのモデル事業だ。個別対応が必要な支援として、夜の居場所や、引きこもる人と家族の支援など15事業を展開し、制度化を目指す。その一つ、夜の居場所「フリースペース」

は、24時間職員がいて調理室や風呂、送迎車両もある各地

の老人ホームや障がい者施設

田嶋

谷口所長は「福祉関係者はみんな人のためになりたいと思ってる」と言う。その思いを動きに変える仕掛けをどうつくれるか。「対話」「主体性」「スピード感」といった言葉に響かせる。

(子どもの貧困取材班・黒

田嶋)